

前回の理科通信ではモンシロチョウの学習についてとりあげましたが、それと同じ時期(じき)に植物の成長の学習が始まりました。玄関(げんかん)の前にプランターを用意し、8種類の植物(ホウセンカ、ひまわり、ピーマン、オクラ、ミニトマト、ヘチマ、あさがお、インゲン豆)の種をまきました。たねによって、土をどのくらいかけるかがちがっていて、少しきんちょうしましたね。



ゆうきさんは「たねをまく時にしっばいしないように気をつけました」、けんとさんは「たねまきで土をこぼさないよう、よそみをしないでできた」、ななみさんは「たねをどこらへんにうえるのか気をつけました」、りょうさんは「たねの上にちよつと土をかける(ことを心がけた)」とふり返りました。



めが出て少し成長したころ、子葉や、くきについて様子をかんさつしました。名取そらさんは「形や色をよく見ること」に気をつけながらかんさつしました。ゆうとさんは「ホウセンカとヘチマをくらべたら、形やくきの色がちがっていた」、もがみそらさんは「葉がざらざらしていて、一番下には根があった」とふり返りました。



6月の中旬に根と葉のようすをかんさつしました。うたねさんは「たねをまくときや根を見るとき、ていねいにやった」、はるきさんは「葉がいっぱいついていて面白い」とふり返りました。

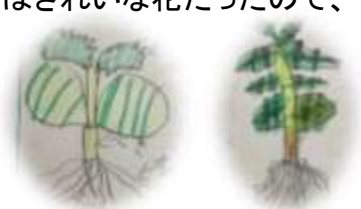




どの花がりっぱにさくかははじめはわからないけれど、どんな色の花がさくのかな、何まい葉がつくのかな、と成長したすがたをそうぞうしながら水をあたえるのはとても楽しかったですね。ハウセンカは全員が育てたので、水やり当番はいませんでしたが、みんなのためを思って、おたがいに水をやることができましたね。お世話をされた人よりも、お世話をした人の方が相手のことを好きになるという話があります。よくかんさつして、水をやって、草をぬいて、一生けん命にお世話ができたお友だちは、きっと育てた花をすっかりすきになって、自分にとって特別(とくべつ)な花が育ったと思います。



熱心(ねっしん)に植物のかんさつをした**きあさん**は「今度は(みんなでうえた)全部の花をかんさつしたい」とふり返りました。かんさつを通して、**かんださん**は「理科で植物の葉・くき・根とかを(勉強したので)、家で育てている植物にもくわしくなった」、**ひろみちさん**は「ハウセンカはきれいな花だったので、もっとさいてほしいです」とふり返りました。



ゆうたさん

いろいろな物の見かたや色形、大きさなどをくらべられたりしたので、たくさんのがんごが分かりました。また、同じもののへんかなどが知れてよかったです。

あゆみさん

しくぶつをそだてているとき、しくぶつが"ど"れくらい大きくなったのか"か"いたのじみでした。ハウセンカが"いちばんおもしろい"はなになって、花がさくのをまてい

りんさん

わたしは、ようちえん(はな)のころからおはながすぎでした。りかのへんきゅうで、おはなのへんきゅうをして、いろいろなはなのなまえをしりました。わたしは、もっとはなのことか"しりた"いとおもいました。

ゆうたさんは色々なものをくらべることと、時間をおいて同じものをくらべること、その両方が面白いと感じました。りんさんとあゆみさんは、植物をより自分の身近なこととしてとらえ、きょうみをもちました。



みんなで育てた植物です。自分の班が育てた植物以外の植物の名前はいくつおぼえていますか？名前を書きましょう。

【 オ○○ 】

【 ○ン○ン 】

【 ほ○○○○ 】



【 ミ○○○○ 】

【 ○○マ 】

【 ○○が○ 】



【 ○ー○○ 】

【 ○ま○○ 】



分かった数

/8

1学期の学習を終えて、**そうたさん**は「虫が好きなので毎日バッタを西やはた公園にとりに行きました。けれど、見つけてもにがしました。」と学習したことを自分の生活にむすびつけて考えられるようになりました。**望月あゆむさん**は「理科の勉強は、楽しく実験をしたり、かんさつをしたりしてもっともっと楽しくなる」、**ひなたさん**は「虫の勉強やじっけんをいっぱいしたいです」、**みずきさん**は「虫のことがよくわかった。新しいことを知っていきたい」、**るなさん**は「ほかの生き物もよく見てかんさつしたら楽しい」、**かいさん**は「水中の生き物の勉強をしたい」と、これから学習したいことを書き、ねつ意を見せてくれました。



ひろみちさん、ゆうたさん、ひなたさん、だいきちさん、かんださん、かいさん、おくわきあおいさんはカゴに虫を入れて持ってきてくれました。おかげで、教室にいながらたくさんの生き物(バッタ、やご、アゲハチョウ、モンシロチョウ)のかんさつをすることができましたね。

休み時間には、授業でかんさつするためのバッタをつかまえるのを手伝ってくれるお友だちがいました。



こちらはモンシロチョウがかえった直後の様子です。雨の日で多くのお友だちが教室にいるなか、モンシロチョウがさなぎから成虫になりました。先生がかけてきたときには、何人もおどろきの表じょうをうかべていましたね。こういったしゅん間に立ち会えることはなかなかないので、きちょうな体けんになりましたね。

★**LUCKY**★

1学期の理科では、植物や虫、風やゴムのはたらきについて学びましたね。**ジャイルさん**は「1学期の4月のときは理科ができるか不安だったけど、だんだん(理解が)できるようになりました。お友だちもすぐ良い意見を出すので、ああ、そういうことなんだ、と思いました。」とふり返りました。

学校の前にきれいな花がさいています。みなさんの中にも、かんさつして元気もらった人がたくさんいると思います。実は、この花はボランティアで**久住(くすみ)さん**が育ててくれているんです。ノアサガオといって、朝はブルー、昼はピンクの色に変わる、南国うまれの植物です。一日のうちに色が変るなんてふしぎですね。

久住(くすみ)さんをはじめとして、学校はたくさんの人にささえられています。きっとみなさんが大人になるまでも、こうやってたくさんの人たちに助けられたり、育ててもらったりすることでしょう。その人たちに感しゃの気持ちもちながらも、そのお返しはすぐにはできないかも知れません。でも、今はそれでよいと思います。いつか大人になったときに、次の世代(せだい)の子どもたちにお返しできたらよいですね。そうやって感しゃのバトンは受けつがれていくものかもしれませんね。

